

令和6年度 第1回 総合教育会議録

日 時：令和6年8月6日（火）13時15分～14時50分

場 所：村民センター 小会議室

出席者：村長 藤城栄文 総務課行政係長 平澤祥二

教 育 長 清水 閣成

教育委員 教育長職務代理者 田中 博美

出羽澤 和子・千 菊夫・増澤 智代

事務局 教育次長 藤澤 勇 指導主事 尾形 浩

書 記：本間 裕子 以上10名

傍聴人：長野日報 伊那ケーブルテレビ

1 開 会 全体進行 藤澤 教育次長

教育長

○令和6年度第一回総合教育会議を開会します。村長さんと教育委員会と”村の教育・教育行政を語り、子どもを語る場”です。よろしくお願いいたします。

2 藤城村長 挨拶

○改めまして、こんにちは。令和6年度第一回総合教育会議を迎えております。ありがとうございます。多様化社会と言われますが、教育に関しては多くの皆様が重要と考えています。不登校の問題・部活動の地域移行の全国的な課題があります。また、本村においては、子どもが高い水準で推移してきている状況から、放課後児童クラブや各学校の教室を今後どうしていくか、本村の魅力向上につながるとともに、学校だけではなく、例えば村図書館を考えた時に、人口が増えてきているのでどう地域のニーズの応えていくか等、幅広い視点で本日の総合教育会議では、皆様にご意見をいただきたいと思いますと考えております。

<自己紹介>

3 協 議 進行 平澤行政係長

（1）休日の中学校部活動地域移行について

① 進捗状況

指導主事

○会議資料を基に「休日の地域クラブ」の立ち上げについて説明

- ・この 1 年間の推進スケジュール

【作業部会 中学校部活の保護者・地域指導者・顧問】と【地域協議会 委員 25 名】で連携を取りながら、R7.4 月からの「休日の地域クラブ」の活動開始に向けて準備を、今後進めていく予定。

作業部会 5・6・7 回 地域協議会 3・4・5・6 回

※第 6 回地域協議会を受けて、R6.11.28 第 1 回総会（地域クラブごと）予定

第 1 回総会を受けて、第 7 回地域協議会・最終を R6.12.17 に予定

- ・休日の地域クラブ立ち上げまでの主な準備内容と手続き

中学校部活動運営方針 南箕輪村総合型地域スポーツクラブわくわくクラブ（以下わくわくクラブ）への登録手続き 各クラブでの準備

指導者研修会等 R7.5 月に、スポーツ文化活動運営協議会（教委主催） 等

- ・7 年度以降の休日の中学生地域クラブの運営（案）

② 予算

<会議資料 2>

教育次長

○休日部活動の地域移行に伴う NPO 法人南箕輪わくわくクラブ制度設計について資料を基に説明

- ・わくわくクラブ事業収入
- ・わくわくクラブ 事業支出
- ・地域クラブ立ち上げのための検討課題 等

村長

○今の説明は、休日部活動の地域移行に係ることだけと考えてよいか

休日部活動の地域移行に係る予算と考えているので、わくわくクラブ全体となると受け止め方が異なってくる。

教育次長

※部活動に関することについて説明（検討課題含む）

- ・クラブ育成助成金 ・指導者謝金（想定額） ・施設使用料 ・スクールバスの利用等

行政係長

○休日の中学校部活動地域移行について説明をいただきました。

①進捗状況について何か質問がありますか

- ・特になし

行政係長

○②予算についてどうでしょうか

村長

○収入の中にある会費（4,108,000 円）は中学生の会費？

教育次長

○わくわくクラブ全体の会費です。

村長

○わくわくクラブに入らない地域クラブ、例えば陸上競技等はどうなるか。

教育次長

○休日に活動行わない部活動は休日の地域クラブを立ち上げないこととなります。また、陸上競技部は、郡の中で例えば伊那陸上競技場で活動する地域クラブに加入していくことになるかと理解しています。

村長

○村の生徒が、郡などのエリアでのクラブに参加していくことに関してのサポート（予算）も考えていく必要があるのでは。他のところでお世話になる生徒・わくわくクラブに入らない生徒は、考えていなくてよいのか。

教育次長

○それぞれのクラブで会費などがあると思います。

村長

○わくわくクラブに入らない生徒には、補助が無いという考え方で現在きていると思う。わくわくクラブに入らない場合も、うち（南箕輪村）の中学生という全体的な見方が、部活の移行の良さを考えた時に大事なのではないか。このようなことを考えることは、今しかできないと思う。

教育長

○村長のお考えをいただきながら、わくわくクラブが村のスポーツ振興の中軸を今まで担ってきており、これからも担っていくということが、休日部活動の地域移行の前提にあります。現在案段階なので、わくわくクラブに入らない生徒をどうサポートできるかに考えが及んでいないところです。大事な課題をいただいていると考えます。

村長

○“わくわく”に入る、入らないは、子どもが決めているわけではなくて、先生方が決めているのか。

教育長

○“わくわく”に入る、入らないについては、これからの方向になりますが、先生方が決めるということはないと思います。

指導主事

○今までは、部活動＝わくわくクラブの Jr ユースとして活動してきたが、今後、地域クラブが立ち上がると、当面平日の部活動と休日の地域クラブとしての活動となり、わくわくクラブに所属するのは、休日の地域クラブとなってくると考えます。

村長

○陸上競技部はどうなるのか。

指導主事

○陸上は上伊那にいろいろなクラブがあって活動している。そのクラブに例えば短距離の生徒は□□クラブ等のように分かれて所属するようになると思われます。南箕輪中学校陸上クラブという組織が無くても、生徒が活動できると思います。陸上は、地域で生徒が活動できる状況があり、作業部会の中で、保護者会・顧問が話し合ってきた方向と受け止めています。

村長

○同じ村の生徒が、わくわくクラブに入会すれば恩恵があり、わくわくクラブに入らなければそうでない、となる状況をどう考えるか。

指導主事

○現在の各部活動に投げかけての作業部会で、先ほど申し上げた陸上部の方向です。

村長

○それは、今の保護者であり、小学生の保護者にとっては、見えていない方向と思うが。

生徒のために、その方向が出されていることをちゃんと説明した方が良いのではないか。

また、それに対してスクールバスの運用等を含め、村が補助しないのはどうなのかと思う。

教育長

○受益者負担をどう考えるか、と重なってくる。わくわくの入会費、学校の施設を使用する場合や例えば伊那の陸上競技場等を使用する場合の使用料・保護者負担等…

指導主事

○今年度、部活動に所属しているのは、約 500 名中 370 名、平日部活動を行っている生徒が休日のクラブに全員入るとは限らない（休日は休みたい等）。現在科学技術部と陸上部の約 70 名が南箕輪の休日のクラブを立ち上げないということで、300 名位になり、休日は休みたい生徒を考えると 300 名より減になると思われます。また、部活に所属することなく、シニア野球をやりたい生徒、空手やサッカーをやりたい生徒等の状況がある。

村長

○休日の地域クラブは教育ではないと考えるのか。

教育長

○学校の教育活動ではないと理解している。

村長

○今まで教育活動の一環で行われてきた活動が急にそうではなくなる。平日の部活動はお金がかからないが、急に土日のクラブになるとお金がかかる。なんか違和感がある。

教育委員

○吹奏楽でも、パート練習のために外部講師をお願いするのに費用を必要としてきた。

平日は費用が掛からないけれど、土日は費用がかかる。そういう考え方もあるのかな、と思う。

部活とは違う活動をしている生徒もいる。その生徒全部を考えていくことには難しさがあるのではないか。

教育長

○それぞれの地域クラブの在り方が大きくかわる。うちのクラブは、外部講師（指導者）を入れないでやろう。ここまでにしよう。保護者負担と重ねながらそのような状況も生じてくると思う。その時に、それぞれのクラブにわくわくクラブを介しながらサポートするか、あるいは先ほど陸上の生徒たちはどうするの、何もしない生徒にどうするの、また、例えば一人だけ村外のソフトボールクラブに入る生徒はどう考えていくか。生徒一人ひとりに丁寧にどこまでできるのか。学校の教育活動を離れるということは私たち部活動やってきた者にとっても、そう考えていく機会ととらえています。

指導主事

○これからは、学校教育を離れ地域の中での子育て、社会教育活動になります。

村長

○いずれは、平日も社会教育の一環となっていくという受止めでよいのか。

指導主事

○どの程度の期間の中で実現していくのかは簡単ではないと思う。平日の指導者確保等様々な課題があると考えます。休日はクラブを立ち上げていくが、その流れで平日も、と言うにはハードルが高い。

村長

○その流れでいくと、陸上をどう考えるのか。

指導主事

○陸上は、上伊那の中でそれぞれのクラブ（競技種目別？）があり、参加している現状がある。

村長

○陸上で高度のレベルを目指す生徒は、休日の地域クラブ、陸上を楽しくやりたい生徒は平日の部活動ということですね。

教育長

○平日部活動で陸上を行い、休日のクラブで陸上を行う生徒がいると思う。予算に関しては、“わくわくの制度設計”とは別に、休日クラブの立ち上げの観点で提示していきたい。

教育委員

○中学校の地域クラブは、現在“わくわくで活動している”小学校のクラブと同じような自主運営となっていくということですよ。私の認識では、小学生クラブの野球・サッカー等は、指導者謝金を“わくわく”からある金額を渡した後は、それぞれのクラブで運営していた。それと同じような考え方があるのかということと、中学校部活動＝Jr ユースの12の部活に対して、5万とかのまとまった補助金があり、“わくわくクラブ”の会員になるメリットを伝えてきている。そのことに関してはどうなっていくのか。

教育次長

○小学生クラブは、委員お話のように補助金があるとともに、クラブ内で会費を集めて運営している。中学クラブに関しても、補助額等まだシミュレーションの段階ですが、指導者謝金を整えていくことを考えています。将来的には、小学生クラブと同じようなイメージを持っています。中学校部活動に関しての補助は、継続していくことを考えてはいます。

教育委員

○科学技術部と陸上部はどうなるのか。

教育次長

○科学技術部と陸上部を含め、各部活動均等割りと人数割で補助を考えています。

指導主事

○“わくわく”に所属すると会費 3,000 円と保険料を納めることになりますが、“わくわく”を通しながら、本年度までは Jr ユース＝部活に Jr ユース＝部活数の均等割りで一定金額と人数割りにより、活動費が補助されています。今年度 14 の Jr ユース＝部活で約 70 万と聞いています。今後検討を重ねていきます。

もう一つは、指導の時間・回数ですが、県のガイドライン（中学生）では、地域クラブとなっても、基本土日どちらか半日 3 時間程度、やりすぎてけがをしたりとかバーンアウトしたりとかならなうように、活動時間も平日 2 時間で 4 日、1 週間で 11 時間程度としています。

大会前等で土日 3 時間 3 時間活動したら翌週は休む等調整していくことで、1 週間で 11 時間程度としています。そのようなことを考え、月に土日 3 回、年 36 回程度の指導回数でシミュレーションしているところです。指導者も毎回出られるか分からないので、出られない時には、保護者が複数サポーターとして見守り、クラブ長が中心になり活動していくこともあると考えております。

先程、吹奏楽の話も出ましたが外部講師をお願いし、謝金が生じる状況となる場合は、吹奏楽クラブでどうするか、考えていただくこととしたい。クラブごとにあり様があるので一律にはいかないと考えます。

行政係長

○ご意見等ありましたら。

教育委員

○広報（村報）に指導者募集とあったテニスクラブは硬式か軟式か。

指導主事

○軟式です。

教育委員

○地域クラブの人数によっては、保護者負担が多くなることが考えられる。村からの補助を考えていく必要がありはしないか。また、指導者も 1 人ではなく、複数が望ましい。土日だけの地域クラブもあり得ると思う。

指導主事

○本村は、先進的に取り組んでいる羽島市を参考にしてきている面がある。土日のみは、特例であって、平日の部活・土日のクラブ活動が連携している状況が主。また、平日の部活と異なる地域クラブで土日活動する場合もあると思います。

指導者に関しては、先ほど申し上げた年間 36 回を 1 人の指導者で通すことには、難しさがあると考え、複数の指導者により各クラブで延べ年間 36 回を考えている。試算すると、20 人位の会員数のクラブで会員 1 人が年間 1 万円・月 1000 円弱の受益者負担となる。お話に合ったように、会員数が少ない場合、受益者負担は増える等、クラブ会員数によって差異がでる。各クラブで主体的な運営がなされ、そこに、村からの補助があれば、受益者負担の軽減が図られることになりました。

行政係長

○平日の部活の顧問と休日のクラブの指導者が異なる場合、指導方法の違いなどがあることが予想されるが。その連携は各クラブに任されてくるのか。

指導主事

○そのことに関しては、連携を密に取ることが大事であり、指導方針があまり異なると生徒が困惑したり、切ない思いをしまするので、生徒指導的なことも顧問・指導者間で共有していく必要があります。部活の顧問とクラブ指導者による研修会を定期的に行うことも予定しています。

村長

○部活によっては、顧問が中心となって指導をしている部活。地域クラブ指導者の方針を受けながら顧問が指導している部活があると思う。そのことを各部活で説明があれば、保護者としてはありがたい

教育委員

○保護者の立場として、“もっとやりたい”と願う生徒・保護者もいると思う。その場合は、他の地域、例えば陸上は伊那市、テニスは箕輪町等が考えられる。南箕輪でそのような種目はないと思われるので、他のエリア・村外に子どもたちが求めていくのではないか。親としては、子どもの願いを叶えたいと思うが、経済的な格差が重なってくる。

教育長

○予算面を含め、現在動いてきているところでのシミュレーション。今後、教育委員会でも協議していくとともに、村長さんと方向性・課題等を共有していきたいと思います。

（２）奨学金等

<会議資料 3・4>

教育長

○教育委員会で検討を重ね、本村としては、高等教育支援に関して現状に留める方向としました。

村長

○国・県から「加速度プラン」等、国内に通う学生などへ私の想定以上の経済的支援策が出されている。村としては、現状の高等教育支援としたい。

（３）旧給食センター跡地利用

<会議資料 5・6・7>

教育次長

※会議資料にて説明

○新学校給食センターが運用を開始。旧給食センターの跡地について、調理室・下処理室・食品庫・配膳ホール、ボイラー室・休憩室等を改修し、小学校で教育活動が動いている時は、多目

的教室・用務員室・相談室・体育科準備室・トイレ等としたい。放課後（夕方）は、現在こども館で運用されている放課後児童クラブが移り、活動する案を持っている。現在、放課後児童クラブ1・2年生は小学校からこども館へ下校後歩いて来るが、旧給食センターに児童クラブが移ると、児童の安全確保を今まで以上に図ることができる。しかしながら、旧給食センターに児童クラブが移る場合、児童クラブのスペースが狭く、西側に遊戯室（プレハブ）が望まれる状況です。

教育長

○旧給食センターに児童クラブが移ると、こども館がより地域に開かれる状況づくりになると考えます。別案で、校舎に空き教室が生じるようでしたら、案として組み立てていくことを考えたいが、学校の実情として、来年度は1年生が4クラス、今の6年生が3クラスで卒業なので、1教室増となる。

また、PC教室を改修したが、通級的な教室として使用する予定であり、部屋がいっぱいの状況。今は、図面での説明なので、必要により学校で直接確認することも大事にし、村長のお考えをいただきたい。

村長

○特別支援学級のクラスをどう考えるか。

教育長

○特別支援学級は、児童生徒8名が1クラス、9名になると2クラスであり、大事な一つの学級と考えている。空き教室に関しては、児童数の見通しを含め、学校と詰めていく。

（4）学校におけるICT活用 <会議資料8>

教育次長

○会議資料にて説明

- ・長野県ICT教育推進センターから職員向けに出されている、“教員のICT活用技能レベル向上と支援研修スケジュール「令和6年度の目標 子どもたち全員が、問題発見・解決の家庭でクラウドを活用できる（2年目）」”に基づきながら、職員は研修・活用を段階的に進めている。職員の得手不得手は当然あるが、ICT支援員を配置し、教員の活用をサポートしてきている。

教育委員

○ICT支援員は村費で配置しているのか。

教育次長

○3校それぞれ、村で予算をつけていただき配置している。

村長

○教師（担任）が替わると急に ICT の活用がある程度なされない状況があると聞いているが、これはある面納得ができると思うが、全くなされない先生もいるとしたら、それはどうかと考える。一定限活用できることが望まれる。

教育長

○ICT 機器を活用先にありきではなく、活用すると授業展開効率的・効果的になる等、校長会・情報教育担当者会等を通して、教職員が前向きに受け止めていくことを、確認及び伝えていきます。

（５）（南部小学区）中学生スクールバス（以下 SB）通学

教育長

○４月に村長より、SB の運行に係り、南部小卒業生徒の自転車通学についてアンケートを取ることはどうだろうという投げかけをいただいた。教育委員会で検討を進める中で、安全面等の面で自転車通学はどうだろう、ということでアンケートを取る方向迄には至っていない今。

村長

○SB がこれからの児童生徒数の推移を見た時に、南部小児童が 200 人規模から 300 人規模となり、これからあと 2 台必要で計 6 台になってくる。SB だけでなく、ドライバーも必要。また、保護者の方から「何で、自転車通学できないんですか」という声もある。また、今の南箕輪小学校区の生徒も自転車通学だったら助かるという見方もできるのではないか。

教育委員

○南箕輪の状況からして、南部小学区・神子柴の南部小学区との境の生徒は、春日街道等の幹線を通る・渡る状況が生じ、かなり危ないと感じている。アンケートを取ってもいいと思うが、アンケートの取り方に係るが、天候や都合によりバスに乗る・乗らないという訳にはいかないと考える。

○自転車専用道路（通学路）のような状況が整えばと思うが、現状は危なさがある。田んぼ道も朝夕通勤の車が通る。

教育長

○今後の SB の状況・自転車専用道路（通学路）等を含め、アンケートについてどうしたものか、私自身は決めかねている。

村長

○小学生の冬場の SB 利用について、北原地区以外にもニーズがあるのではないか。

教育長

○大泉地区の農道に近い高根の子どもたち、神子柴の南部小学区に近い子どもたちと思います。

基本的に、学校から 4 km以上距離がある子どもたちとなるとと思いますが。

村長

○大泉地区高根の子どもは、まっくんバスの利用はどんなものかと考えている。

教育長

○昨年度北原地区の中学生 4 名を冬季間乗せてきている。大泉地区高根の子どもについて検討の余地はあると思われる。

教育委員

○隣町では、自転車通学の生徒は雨などの日には、親が送迎している状況がある。

行政係長

○自分は中学時代今より道は良くなかったが、自転車通学をしていた。親は心配であったと思う。

教育長

教育委員会として、アンケートを取る方向でよいでしょうか。

村長

○今すぐにアンケートとは思わない。生徒が選択肢を持つ意味でも自転車通学について、スクールバスを増やすタイミングでと考える。

教育次長

○ドライバーさんの確保も難しい現状がある。

教育長

○アンケートを取る方向で、来年アンケートを実施するか等定例教育委員会の中で話題にしていきたい。

（６）小中学校駐車場

教育長

○南箕輪小学校に関して、職員・保護者駐車場が欲しい状況がある。行事が無い時においても、雨の日等の朝は、小・中学校の保護者の送迎で村体前・村公民館・中学校前が非常に混雑・危険な現状。また、雨等で校庭が使えない場合も困り感を持っている。

給食センターの跡地を駐車場にという案も含めて、どこか土地を駐車場として借用・購入できないかと考える。

村長

○20 年後を描いた時、南小・村体の建て替えがある。

教育長

○保護者の送迎に関しては、学校に横付けではなく、こども館・役場等で子どもを乗降する方向をアナウンスしていくことを大事にしたいと考える。行事等では、役場・こども館・コミュニティセンター・中学校駐車場等の活用を丁寧に行っていくこととしたいが、村長においても、どこか土地を駐車場として借用・購入できないかについても留めておいていただきたい。

村長

○候補地があれば、ですね。

教育委員

○南小の体育館の脇に、少しスペースがある。学校で使っていた畑や、小プールの横を東に行ったところの畑は、候補地としてはどうか。

教育委員

○小プールの横を東に行ったところの畑は、進入路が狭く車の入りは難しい。

○農協（JA）の跡地も場所的にはよいと思われる。駐車場としても含め有効活用できないか、と思う。

村長

○村体の植木・岩は取り除く方向ですね。

教育次長

○3 か年に入れてあります。

教育長

○今後駐車場については、候補地を含めて検討していきます。よろしくお願いいたします。

（7） 藤城村長より

○年度初めにお願いしていることで、村図書館の拡充について、村民センターの教育委員会の場所の開放を含め、図書館の機能向上を図ることができることを願っている。他の自治体の図書館を見ると本村の図書館は人口増の中で、スペースが狭いと思う。検討を進めていただきたい。

○これから不登校の児童生徒が増えてくと予想される。子どもたちに居場所を図書館と併せて提供していくことはどんなものか、考えている。教育委員の皆様にもお考えをお聴きできればと思う。

○もう少し、会議の時間が欲しいですね。

（8） その他

4 その他

※参：令和6年度南箕輪村の教育　　＜会議資料9＞

5 閉会

教育長

○村長さんはじめ皆様ありがとうございました。

令和6年度第一回総合教育会議を閉じます。